

令和5年度
東海北陸地区子ども会育成研究協議会三重大会
報 告



主 催

公益社団法人 全国子ども会連合会
東海北陸地区子ども会連絡協議会
三重県子ども会連合会

三重大会御礼



令和5年度東海北陸地区子ども会連絡協議会

三重県子ども会連合会

会長 小野 欽市

令和5年10月14日・15日の両日にわたり、三重県津市の三重県総合文化センターにおいて「生きているって楽しい！ー子どもが輝く子ども会ー」というテーマのもと開催いたしました東海北陸地区子ども会育成者研究協議会につきましては、公務何かとお忙しい中、服部浩三重県副知事をはじめとする御来賓の皆様や、東海北陸地区各地域の子ども会関係者約140名の参加者、約50名の運営スタッフの体制にて盛大に開催することが出来ました。

当日は邦楽 西尾会による三味線・民謡の披露という迫力のあるオープニングから始まり、御来賓の皆様より御祝辞を頂戴致しました開会式、そして広島県子連会長 大江昭典先生により「子ども達の安全安心な体験活動…KYT+α」と題した基調講演や第1～第5分科会での議論、また各分科会座長による分科会総括、最後に社会人落語家 切磋亭琢磨先生による記念講演まで終始熱心な議論懇談を重ねていただきました。

今回は、三重県の子ども会スタッフの頑張りによって、各分科会のまとめを初日の情報交換会中に作成することが出来ました。このことによって2日目の全体会も内容の濃い締めくくりになったと考えます。

いま、私たちが直面する「子ども会の課題」は多岐にわたりますが、単子それぞれが抱える課題には共通の現代社会への指針が含まれていると考えます。

「子どもは社会の宝」だからこそ私たち大人の一人一人が、子ども達へ暖かな眼差しを向け、子ども達が遅く大きく育つように互いに理解しあって進むことの重要性が求められています。私たちは今後とも、社会全体で子どもたちを慈しみ新しい世紀に羽ばたく力を育てる努力を訴え続けていかねばなりません。

今回の育成研究協議会開催について各方面のご理解・ご協力をいただきましたこと心より感謝申し上げますお礼の言葉といたします。

参加者数

		参加者数	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会	情報交換会	宿泊申込	視察旅行
参加者	岐阜県	18	2	10	0	1	4	13	11	2
	愛知県	15	4	1	1	5	4	13	13	5
	福井県	7	0	2	0	3	2	7	6	0
	富山県	10	1	1	6	1	0	10	9	0
	石川県	10	3	2	3	0	2	10	7	0
	名古屋市	7	0	0	0	0	5	0	0	0
	広島県	1	0	0	0	0	0	1	1	0
	全子連	5	0	0	0	0	1	5	0	1
	県外小計	73	10	16	10	10	18	59	47	8
	来賓	5	0	0	0	0	0	2	0	0
	津市	40	9	3	6	3	0	0	0	0
	松阪市	15	5	3	0	0	0	0	0	0
	県内小計	60	14	6	6	3	0	2	0	0
	講師	6	1	1	1	1	0	5	4	1
	参加者合計	139	25	23	17	14	18	66	51	9

スタッフ	実行委員	8	0	0	0	0	0	7	7	2
	伊賀市	5	0	0	0	0	0	0	5	0
	いなべ市	2	0	0	0	0	0	0	1	0
	鈴鹿市	4	0	0	0	0	0	0	2	0
	津市	18	0	0	0	0	0	1	0	1
	松阪市	6	0	0	0	0	0	4	0	2
	飯南	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	名張市	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	カメラマン	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	スタッフ合計	47	0	0	0	0	0	13	15	5

総計	186	25	23	17	14	18	79	66	14
	参加者数	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会	情報交換会	宿泊申込	視察旅行

○テーマ 聴くことの意味

～子どもの成長を促すコミュニケーションのヒント

○講師 三重大学病院緩和ケアセンター長 松原貴子 先生



会場責任者	中居 常量（上野児童福祉会連合会）
座長	福井 靖（愛知県子ども会連絡協議会）
副座長	古谷 仁彦（愛知県子ども会連絡協議会）
記録者	田辺 英俊（津市子ども会育成者連合会）
記録補助	橘 大介（松阪市子ども会連合会）

聴くことの意味～子どもの成長を促すコミュニケーションのヒント～との講演と、グループワークを実施した。講演では、聴くことの大切さ、意味を理解するだけでなく、相手に私がわかっているという姿勢を示すことについて、話すことで自分自身の思いの理解につながるということについて等、話があった。グループワークでは、家族のコミュニケーションが希薄と言われる現状を踏まえて、連合組織や地域のコミュニティの役割等どういったものが必要か、地域の子どもや保護者に寄り添いや、かかわりが出来るかという方向性が示され、各々のグループワークへ移った。

会場には、子ども会へ加入直後の方や、語れるベテランが参加しており、また自然と男女に分かれて着席。各グループは、出身地区の様子から話し始め、内容を深めていた。

グループワークでの意見は以下の通り。

- ・講師の話聴き、グループ内でのコミュニケーションを大切にして話すことができた。
- ・人種の多様性が広がり、国籍を問わず加入してもらえる体制づくりに尽力している。
- ・高学年が低学年の子を支援する姿が大人が求める子ども会活動の一つ、この経験をもっとさせていきたい。
- ・子の減少、子ども会へのメリットを感じにくい現状から、子ども会の参加者・役員が減少しており、その結果参加者役員共に不足している。
- ・子ども会規約を基本に『誰の』『何のため』を再度みんなで共有しなくてはならない。
- ・都市部・農村部、それぞれの課題を共有していくかが課題。
- ・今まで、熱心な方が率いていたが、その方も亡くなり、さらに小学校合併の計画があるなど、子どもが少なすぎる。親・子ども両方に余裕がないので、親の負担なく、子が楽しい行事であれば人が集う。そういった事業を検討し役員や会員の増加へとつなげていきたい。

- ・子ども会への加入で、こういった楽しい経験できるのか、広げていけるのかを話し合い、子が希望しても、親の意向で加入しないことがよくある。たとえ年に1回でも、大きな楽しみを経験できるイベントを計画できると、加入者の増加につながるのではないか。
- ・グループワークを実施して、楽しくコミュニケーションできた。
- ・高学年の子に低学年の子が連れて行ってもらうような地域の縦の繋がり、違う小学校区でも中学校で出会い交友がさらに深まるといった横のつながりが出来るのはメリットである。また、家族内でもソフトボールなどについて、共通の話題が増えるのも良いところ。
- ・人、時間、金には限りがあるので、廃品回収などで資金の足しにしている。今後リソースが限られていく中で、取捨選択していきたい。

本日の話し合いにおける共通点は、子ども会役員就任希望者の不足、子ども会脱退者の増加、活動資金の乏しさ、コミュニケーションを大切にしながらワークできたこと、であった。これらの問題は、過去より堂々巡りをしているもので、子ども会活動の長い歴史の中で解決の糸口は見つからなかった。これらの結果にすぐさま直結する解答を見出すことは難しいが、解決のヒントやこの問題を共有する仲間が日本中にあることを、当分科会から何らかの形で地元へ持ち帰ってもらうことで、地域で役立ててもらいたいとの言葉で締めくくられた。

講師より、グループワークを終えて、方法は時代・状況により異なるので、子ども会の目的・目標を継続していく必要がある。一方で会員（賛同者）を増やす勧誘方法を検討することも必要だが、良いと思うことに人はついてくるので、よい活動をしているという旗を掲げて、実践することで人を集めることも必要と考え、アドバイスがあった。

○テーマ 自発性が育つ活動の場づくりとは
 - 演劇指導の視点から -

○講師 劇団 Theatre Grace 代表・元中学校教員 筒井昭仁 先生



会場責任者 廣岡 伸幸（上野児童福祉会連合会）
 座長 森下 珠美（一般財団法人岐阜県子ども会育成連合会）
 副座長 水野千恵子（一般財団法人岐阜県子ども会育成連合会）
 記録者 後藤 拓也（津市子ども会育成者連合会）
 記録補助 廣崎 元昭（津市子ども会育成者連合会）

<はじめに> 筒井さんより

○今日の公演はチェックイン➡ワークショップ➡チェックアウトの流れで行う。
 演劇という遊びを通して、話を聞くだけではなく体を動かしていくような研修にしたい。
 ダンス演劇で表現する場面もあるので、できるだけ参加して頂けると楽しい活動になる。

○ワークショップで音楽をかけながら活動する中で、身体接触をする場面があるが、どのあたりまで大丈夫か。

「いいよ」「嫌だ」ということをはっきりと言えない場、本音と建て前を使い分けている場は子どもの創造性を阻むことになる。

自ら選び、そして表現することが自発性を育む。

自発性が育つ場づくりとな何か、どのようなかわりが必要なのか、体験によって体を使ってつかんでほしい。

<チェックイン>

○今回の研修では、「エリクソンの発達段階論による構造」を用いた自発性が育つ活動の場づくりの基本構造を用いて話を進めていく。

発達段階	心理社会的危機	基本的強さ
乳児期（生後～）	基本的信頼 vs 基本的不信	希望
幼児期初期（18 か月～）	自律性 vs 恥、疑惑	意思
遊戯期（3 歳～）	自主性 vs 罪悪感	目的
学童期（5 歳～）	勤勉性 vs 劣等感	適格
青年期（13 歳～）	同一性 vs 同一性の混乱	忠誠
前成人期（20 歳～）	親密 vs 孤独	愛

○そこにある心理社会的危機を心のゆらぎと捉え、そこに生まれる葛藤を乗り越えることによって、自分のネガティブな部分をどう受け入れていくか考え、自分に対する肯定が強まることで、基本的な強さが生まれていく。

ここを基本としていながら自発性が育つ場づくりについて考える。

○自発性が育つ活動とは

「遊ぶこと」 成り立たせるには現実的な制約（ルールや規範）が必要

子どもも大人も自由に創造できる。遊ぶことに没頭することで創造性が発揮される。

○自発性が育つ活動の場とは

信頼できる雰囲気があり、自分の認知を思考から感覚へと解き放ち、気分を高めたり、創造性を発揮したりする場であり、新たな自分を発見する場です。

○支援者の望ましいあり方

ほどよい「関係性」で関わるのが大事。具体的には、下記の通り

- ①「温かいまなざしを向け続けること」「見守り続ける事」等（評価判断を保留し観察）
- ②「ハイタッチ」「握手」等（非言語による触れ合い）
- ③「受け止めて、咀嚼し、伝え返してあげること」「体験して見せてあげること」等（FB）
- ④「ちょうどいいタイミングで手を差し伸べること」「方向性を示してあげること」等（支援）

- ・温かいまなざしを続けることで、否定が肯定に変わる。
- ・非言語による触れ合いは子どもたちにとっては大事。
- ・子ども会を通して子どもが次の世代の親になるということも見越して子どもに接する。
- ・できているのか、できていないのかを判断してあげる・・・「見守る」
- ・子どもの自発性（成長）を大人が邪魔をしてはいけない。

○場作りについて

- ・学ぶ、真似ていくことから私たちは成長する。
- ・失敗を恐れる⇒失敗できることが次のステップを生む。恥ずかしいけど、次の一歩をふみ出す勇気が大切。
- ・「もっとこうしたほうがいい」等、行き過ぎたかわりは、罪悪感や劣等感を高め、自発性の発露を妨げる。「やりきったね」という声かけ
- ・子どもたちに自分たちで何をするのか考えさせる。ルールや音楽縄など役割をまかせる。劣等感を乗り越えることで有能感を得る。

<ワークショップ>

○A4用紙を半分に折り、過去の事を思い出して一番のことを書く。

- ・頭の中に湧いてきたことを素直に書く。
- ・出てこないのであれば、それでいい。
- ・ワークショップが終わったら、もう一度書く。

○円になって集まる。

みんなで順番に番号を言っていく。

何秒くらいかかったかを聞く。

20秒かかったので、次は何秒でいうか目標を設定する。

出てきた目標を多数決で決め、参加者が自分たちで目標設定する。

- ・みんなで協力することで成果が得られることを体験させる。遊びでも体験させることはできる。

○一人で動き回って空間を感じる。

○歩きながら肘と肘でタッチ

○近くの人とペアになる。できれば男女で、恥ずかしいのでお互い目の部分を手で遮ってダンスをする。

最後に差しさわりのない範囲で身体接触して終わる。

○ペアを変える。

今度は2人でペンを1本使う。

ペンをお互いの指に挟んでダンスをする。

○円になる。

代表の人の動きを真似てダンスをする。

代表の動きにみんなが合わせる。

○30秒の沈黙の時間を取り、呼吸を整える。

○最初に書いたエピソードをもう一度書く。

書いたら最初に書いたものと変化したことを発表する。

①膝が痛くなり病院で検査を受けた。

➡思ったよりも動けたみなさん活動できてよかった。

②先週、熱が出た。会社を休むために上司に連絡した。

➡休んだことがラッキー。

コロナやインフルエンザでもなく、良い休みになった。

書きぶりが全然違った。

③先日、孫の祖父母会に出席した。じゃんけん大会で夫と孫が優勝した。

➡10月6日に孫の祖父母会に行き、じゃんけん大会で孫と夫が優勝した。

孫とハイタッチをした。

- ・否定的な物の見方が肯定的に変わった。
また、思考が明確になった。
- ・授業を受けているだけでは自発性は低い。
なので、思考モードだけではなく、体を動かす
歌を歌うことをする。
半覚醒になる。

<チェックアウト>

○それぞれのグループで今回の研修で感じたことを発表する。

- ①「体の動きが軽くなった」「かわいい感じ」「体の動きがわくわくする」
- ②「恥ずかしかった」「温かいまなざしが大事」「感覚的思考がたいげんできた」
「この分科会に来てよかった」
- ③「不安でいっぱいだった」「恥ずかしかった」「子どもとやってみたい」
「先生すごい」
- ④「動いて食欲がわいた」「楽しかった」「親近感がわいた」

- ・頭、体、気持ちすべてを使って楽しめた。
学びは楽しいもので、楽しんで活動することで自発性を高められる。

○音楽を流しグループのメンバーに「ありがとう」と声をかける

終了

○テーマ おいしく食べて健康に育つ子どもたち

○講師 学校法人越原学園 名古屋女子大学 健康科学部健康栄養学科
教授 片山直美 先生



会場責任者	前 信一（上野児童福祉会連合会）
座長	堀田喜久雄（一般社団法人富山県児童クラブ連合会）
副座長	河合 詩織（一般社団法人富山県児童クラブ連合会）
記録者	河合 史華（津市子ども会育成者連合会）
記録補助	藤川 由実（松阪市子ども会連合会）

【先生より】

初めに、現在ではマスメディアによって情報が氾濫し、健康に良い情報ばかりではなく健康を害する情報も多くの方々の目に触れるようになってきている。

しかし、一人一人が正しい知識を学び多くの情報から取捨選択をして正しい知識を身に着けなければいけない。

ただし、取捨選択をするにあたってはその判断に用いる基準値、つまり基礎知識が必要となる。

子どもの成長には「朝食を摂ること」「早寝早起きをする事」が必要とされている。

朝食をとることは学力向上にもつながることが証明されており、海外からは日本の学力の高さは評価されている。

学力の高さに繋がるものとして朝ごはんを食べることが大事だといわれている。

朝ごはんは8時30分までにとるほうがよいとされており、間に合わせるためには早起きしなければいけないため、早寝に繋がる。

「早寝早起き朝ごはん」は子どもたちにとって、学力向上、体力増進、社会性・動機づけの発達に必要不可欠であることから家族みんなで「早寝早起き朝ごはん」に取り組むことで長寿につながる。

【グループ討論の仕方】

- ・3つの班に分かれる
- ・個人意見を端的にポストイットに書き出し、その意見をグループ毎に集計。

【第1回グループ討論】

1回目は、各班テーマがありそのテーマについて話し合う

1班

「早寝・早起き朝ごはん」（朝起きることができる子に育てる、朝ごはんを家族みんなで食べる習慣作り、夜早く眠る子に育てる：親として協力できること）

2班

「成長に合わせた栄養確保」（朝食抜き、欠食、バランスの悪い食事、現在の家庭の食卓の問題点「孤食」、「個食」、「固食」、「粉食」、「小食」、「濃食」、「子食」、「戸食」、「虚食」）

「こ食」とは、それぞれの単語に意味をもちかつては5つであったが最近9つに増えた

孤食…1人で食事をする事

個食…家族で食べているがバラバラのメニューを食べること

固食…同じものを食べ続けること

粉食…パンやピザなどの粉ものを食べる事

小食…少ししか食べないこと

濃食…加工食品などの味の濃いものを食べる事

子食…親ではなく兄弟や友達とたべること

戸食…外食などで外で食べる事

虚食…食欲が無いことから何もたべないこと

3班

「しっかりうんち」（排便を我慢したり、便秘、下痢などのうんちの問題）

1班

①早寝をするためには？

- ・決めた時間に入浴する
- ・昼間、体を動かすようにする
- ・夕食の時間を一定にする

②早起きをするためには？

- ・決めた時間に明るくして起こす

- ・家を出る時間を決めておく
- ・朝起きる楽しみを作る
- ・寝覚めの水分補給
- ・楽しむための朝ごはんとはなにか

③朝ごはんを食べるためには？

- ・好きなものを1品つける
- ・決まった時間に食べる
- ・体にいいメニューを一定して作る

2班

「こ食」にならない様にみんなで早寝早起きして朝ごはんをしっかりと食べて夜は早く寝るようにする。

- ・少しでも家族の時間を作る
- ・一人で食べるのではなく誰か、と一緒に食べる
- ・生活リズムを合わせて家族みんなと一緒に食べる努力をする
- ・パンではなくお米を食べる（おにぎり等）
- ・大皿ではなく家族がどれを食べたか分かるように、取り皿等を使って食べる（偏りを防ぐため）

3班

- ・規則正しい生活
- ・トイレを促す食品摂取
- ・トイレの習慣

【それぞれのテーマの共通点】

- ①早寝・早起き・朝ごはん
- ②運動
- ③生活リズム（規則正しい時間）
- ④家族の時間
- ⑤食事内容

この共通点を元に「子どもへのアドバイス」、「親へのアドバイス」、「私たちのアドバイス」を考える。

【第2回グループ討論】

1班

	子どもへのアドバイス	親へのアドバイス	私たちができること
①	一定リズムを作る	家族の理解と協力	私たちができること
②	体を動かす	一緒に運動する	イベントで活動の場を作る
③	自分で時間を考える	決めた時間にできるように工夫する	時間割の見本 (生活リズム)
④	テレビを制限 会話を増やす	共通の話題で 子どもの話を聞く	共有する時間を確保 (自覚する)
⑤	食育 残さず食べる	地産地消 (具たくさんお味噌汁)	イベントで調理実習

2班

	子どもへのアドバイス	親へのアドバイス	私たちができること
①	早寝早起きをする	早寝早起きをする	早寝早起きを習慣づける
②	運動をする	一緒に運動する	親と一緒に運動をして コミュニケーションをとる
③	規則正しい生活をする	規則正しい生活をする (子どもの手本になるように具現化する)	時間を決めて ルーティン化する
④	食事の時間をとる	家族との時間をとる	楽しい食事時間の時間を 提供できるように、みんな で食べれることに感謝する
⑤	好き嫌いを無くすように 努力する	子どもが食べやすいものを 用意する	発酵食品、大豆、果物、 野菜などバランスよく摂取する

3班

	子どもへのアドバイス	親へのアドバイス	私たちができること
①	時間を決める	声掛け	子どもの様子を見守る
②	楽しくできること	一緒に参加する	一緒に付き合う (ウォーキングなど)
③	余裕をもって	シール等で 見える化をする	サポートする(休みの日 だけでも一緒に食べる、 食事を作ってあげる)
④	楽しかったこと	普段から楽しい会話	朝だけ、休みの日だけ も一緒に食べる
⑤	好き嫌いなく	バランスのとれた食事を とる	食事を作ってあげる

【まとめ】

上記のテーマの意見でそれぞれのアドバイスを考えたことにより

子どもへは「子どもの自主性を育てること」

- ・本人が約束ごとを決め、守る
- ・約束をまもったことについては、見える化する(ご褒美シールを貼るなど)

親へは「努力をすること」

- ・朝、5分でも良いので顔を見て子どもと話す時間を作る

私たちへは、「親子ともに楽しめるイベントを作る」

- ・ラジオ体操や、親子料理教室など親子ともに参加できるものなど
- ・イベントの中で、親の相談できる場所を作る

これは、私たち子どもに携わる人々がしていかなければいけないところではないだろうか。
こういった子どもや親を見守る環境の積み重ねが大切である。

○テーマ 子どもたちを取り巻く ICT 教育と環境

○講師 株式会社 LITALICO

LITALICO ワンダー三軒茶屋・青山教室長 穂山桂一 先生



会場責任者	早瀬 晴信（上野児童福祉会連合会）
座長	平山 英一（一般社団法人福井県子ども会育成連合会）
副座長	大森 千恵（一般社団法人福井県子ども会育成連合会）
記録者	水平 学（津市子ども会育成者連合会）
記録補助	水本 晴香（飯南町子ども会育成者連絡協議会）

●各種子どもたちを取り巻く数字

○小学生のタブレット所有率

■18%(2018年度)→34%(2021年度)

○タブレット・パソコン利用率（学校家庭問わず）

■35%(2020年度)→90%(2021年度)

●GIGA スクール構想

○2019年度から5年間(2023年度)かけて整備予定が新型コロナウイルスの影響で、
2021年度にはほぼ整備完了

●新学習指導要領

○知識及び技術、思考力・判断力・表現力など、学びに向き合う力・人間性など、3つ
の力をバランスよく育む

○重視する内容

■プログラミング教育、外国語教育、道徳教育、言語能力の育成、

理数教育、伝統や文化に関する教育、主権者教育、消費者教育、特別支援教育

●小学校での活用

○事例① 小学校5年生 正多角形をプログラムを使ってかこう

○事例② 社会科見学での活用

●学習指導要領での小学校プログラミング教育のねらい

○プログラミング的思考を育む

○現代社会が情報技術に支えられている。上手く活用し、よりよい社会を築いていく態度を育む（要約）

○教科等での学びをより確実なものにする

■プログラミング技術を身につけるのは副産物。主ではない。

講師の話聴き、グループにて ICT の活用について話し合いされ、発表しました。

●1 グループ

- ・紙などをデータ化→送り直しなどコストや労力カット。
- ・参加方法の多様化
- ・市町村合併でのエリアの広大化への対応
- ・オンラインでの行事も考えられるのではないか
- ・子ども会の仕事の効率化
- ・出席確認や手配などの対応
- ・ICT化のこと子ども会で学べる
- ・市町村のお願い。デジタルデバイス子ども会活動でも使わせて欲しい！を東海北陸から要望していきましょう。

●2 グループ

- ・モラルをどう教えていくのか？
- ・スマホ、タブレットなどの使い方
- ・現実とバーチャルの違いをどう教えるか。実体験も大事
- ・子どもよりも保護者の方にどう教えられるか

●3 グループ

- ・親子間で活用するための目的を明確化する（使用ルールの家庭での明確化）
そうしないと子ども会でも使えない
- ・子ども会用のプログラムの必要性
- ・意見の違う人の対応（対面だと言えないことが言えるようになる 匿名性）

- ・夜の会議もオンラインで解決
- ・子ども会ゲーム大会。他地域との対戦
- ・行事の人気などの見える化
- ・実行動できるのか。できない子どもが多くなっている。対面が大切でないか

●各グループから発表に対する講師の助言

Q 市町村のお願い。デジタルデバイス子ども会活動でも使わせて欲しい！を東海北陸から要望していきましょう

A 自治体によっては貸与しているPC、タブレットに制限がある。子どもの成長に寄与する活動には自由に使えるよう提案していこう

Q リアルとバーチャルの違いをどう教えるか。

A 子ども会活動はリアルが大切。ネット上の誹謗中傷は顔が見えない、何かあっても自分が被害に遭わないと思っているので発生している。子ども会のように、リアルが前提であれば、オンラインでのコミュニケーションも丁寧になる。そこからネットの先の顔の見えない相手にもどうコミュニケーションを取っていけば良いかを学ぶ機会になるのではないか

Q 意見の違う人の対応（対面だと言えないことが言えるようになる 匿名性）

A リアルな中だからこそ言えない話がある（人の顔色、人間関係など）敢えて匿名性を高めることで、顕在化していない課題や意見が見える化できる

- テーマ これからのジュニア・リーダー、ユース・リーダー
○講師 公益社団法人全国子ども会連合会
会長 美田耕一郎



会場責任者	中森 祐司（上野児童福祉会連合会）
座長	藤田 宗広（石川県子ども会連合会）
副座長	鎌倉 和美（石川県子ども会連合会）
記録者	福岡 篤（津市子ども会育成者連合会）
記録補助	阪井 清人（松阪市子ども会連合会）

1. 子ども会の現状分析

ピーク時には 820 万人（安全会ベース）の入会者がいましたがコロナ前の年には 320 万人になりました。

300 万人を切ると公益社団法人として解散を視野に入れられないといけないのでなんとか 320 万人に留めました。

コロナ後、現在 250 万人になり、おそらく今年 200 万人まで減るとの予想が立てられています。

会員の増加の話をした時に少子化の問題もあるが、少子化ペース以上に子ども会離れが進んでいる。

過去に劇的に減っているのは平成 17 年度で、平成の大合併で全国的に行政機構が変わり、子ども会会員数が減った。

市町村は合併したが子ども会が合併出来ず、活発な地域の子ども会がなくなってしまった。

2. 子ども会は、これからも必要なのか

子どもたちが子ども会に属さなくても単位子ども会に残るようになっている。

実際の活動を見ても単位子ども会はおそらく消えないであろう。

公益社団法人として解散を踏まえた検討をした時に、まず何が無くなるんだろうと検討している。

婦人会・青年部・子ども会と 3 部会があったが現在とニーズがあっていない。

昔は小学校から帰ってから両親が帰るまで暇をつぶすために人が集まらないとつぶせなかったが、現在では一人で時間をつぶせる選択肢が増え、人と集まらなくても良くなっている。

3. 子ども会の現状と今後の子ども会見据え全子連として取り組んでいる事

全子連の公益社団法人化の資格がなくなる可能性がある。

それを踏まえて子育てを支援・推進をするための議定書などを提案し行政の協力を得られる環境を作る努力を行っている。

●グループディスカッション

テーマ：これからのユース（シニア）リーダー（美田会長の話を聞いて）

1班

- ・ジュニア・シニアの目標として資格があった方良いのではないか？
- ・ジュニア・シニアがどう考えてるかが重要
- ・楽しい行事も必要

2班

- ・選択として資格があるのはいいが、その資格が必須というものは違うのではないか？
- ・ジュニアリーダーはあった方がいい。大人と子どもを繋ぐには必要

3班

- ・地域としては社会福祉士を作るのは良いが、ユース（シニア）にそこまで求めない方がいい。

4班

- ・ジュニアリーダーは地域で活躍出来る人材として育てるのがいいと思う。

参加者アンケート集計結果

1. 会場について

*大変良い…33%

*良い…60%

*普通…7%

*残念…0%

*大変残念 0%

- ・会場が広いのに参加者が少ないのが残念に思いました。
- ・会場がとても広かったので誘導の方がいてくれてよかったです（バス乗り場含む）。ありがとうございました。
- ・駐車場が遠すぎます。近くの駐車場での乗り降りを OK にして欲しい。
- ・会場が広く大きいためか、場所がわかりにくかった。
- ・会場となった文化センターは良いところです。中ホールでも十分な広さがありゆったり出来ました。
- ・参加者が少ないのはいたしかたないが、空席が目立つ。
- ・会場が良い場所なのに出席者が少なく、オープニングセレモニーの人達が気の毒でした。座る位置をきめるなりしてあげると良かったのではと思いました。
- ・広すぎて目的場所がわかりにくかった。移動の時に案内があると良かった。
- ・分科会へ移動するにあたって、会場が広すぎてアナウンサーの声だけではわかりづらかったのは残念でした。

2. 基調講演について

*大変良い…28%

*良い…41%

*普通…23%

*残念…8%

*大変残念…0%

- ・KYT 研修は毎年行っていますが、今回の話を聞いていろんな場面を思い出し、再度考えさせられました。
- ・基調講演は実践に裏付けされたお話で参考になりました。

3. 分科会について

*大変良い…27%

*良い…38%

*普通…30%

*残念…2%

*大変残念…3%

- ・分科会会場の音の反響がして聞きにくかった。
- ・分科会のディスカッションに入る前の提起が良い話ではあったがテーマとマッチしていなかった。
- ・美田会長の話は別テーマで参加者もその気持ちで聞き、討論できると良かった。
- ・第2分科会に参加してよかった。今までにない発想でした。自然に初対面の人と関わり話す事（情報交換）ができました。題に対しても身体に感じ、伝わりました。今後、良い伝え方だと思い活用させて頂こうと思いました。
- ・短い時間の中、うまく分科会を運営していただきありがとうございました。
- ・分科会では現役のお母さん方とお話しできて楽しかったです。
- ・分科会の子ども会の役員のあり方についても実際参加する人で妊娠中や小さな子どもを家へおいて、あずけて出席することが本当に子どもの為の子ども会なのか、ギモンに思う。
- ・分科会・情報交換会とても良い情報（話がきけて）良かったです。
- ・分科会では政治的、子ども会を取りまく動きが分かった。

4. 情報交換会について

*大変良い…25%

*良い…31%

*普通…31%

*残念…10%

*大変残念…3%

- ・情報交換会では、子ども会に尽力をかけていらっしゃる人が数多くいらして、私もこれからも子どものために…と思わせて頂きました。有難うございました。
- ・スタッフの皆様お疲れさまでした。情報交換会の向かって左側の受付の方、少し感じ悪かったです。

5. 全体会について

*大変良い…15%

*良い…40%

*普通…39%

*残念…6%

*大変残念…0%

- ・分科会速報を出していただけたこと、ありがとうございました。
- ・分科会のまとめのみの参加でしたが、とてもひびく言葉や事柄等の話し合いがあったのだなと思いました。
- ・分科会速報の取りまとめ、お疲れ様でした。
- ・全体会を聞いて…子ども会の組織にあっていないテーマが有り残念でした。
- ・全体会の話がまとまっていなかった様に思ったので事前に整理して発表されるとよいかと思いました。

6. 記念講演について

*大変良い…41%

*良い…32%

*普通…27%

*残念…0%

*大変残念…0%

- ・子どもの落語の年少の子がたいへん良かった。
- ・子ども達の落語・小話もとても良かったです。先生のお話も感動しました。
- ・落語家の話がすごくよくて元気もらえました。
- ・記念講演で言われたようにプラス思考で子どもたちと向き合います。

7. その他

- ・いろいろと準備頂きありがとうございました。
- ・参加者が少ない。子ども会が衰退するのも無理ないと思う。
- ・長年組織のトップとしてやって頂けるのはありがたいが、それが後世＝やりたい人にやらせておけば良い、現役＝自己満足・しがみつきの構図になり意思が受け継がれていけないのがもったいない。
- ・大きく時代が変化した今、大幅に見直さないと解体は免れないと思う。
- ・これからは三重さんのように工夫した研修会が必要なのだろうか？と思いながら、どうしたら参加者が増えるのか？という思いもあり、来年に向けて動きます。

- ・私の所属するところでは役員が任期中に町議から県議になり、表面上は協力してます
アピールで票かせぎ。裏では町と町職員に働きかけ解体の圧力をかけ、子ども会解散
派に向けて票かせぎ。こちらもボランティアで自分の時間・仕事をやりくりしてやっ
ているのに腹立たしいです。行政も予算は減らす。でも解体を促すわけでも支援する
わけでもない。上の方の組織で訴えかけて欲しいです。
- ・大変おつかれ様でした。
- ・急な人数の減があった中でかと思いました。その中で色々と考えをもって開催して頂
いてありがとうございました。
- ・講演や分科会にすばらしい先生がいらっしまったと思います。企画をされるのが大
変だったのではないかと思いました。
- ・それぞれの会の運営・心くばり大変感心しました。特に笑顔・あいさつがしっかりな
されておられ、見習わせていただきます。
- ・15日のみの参加でしたが、とてもわかりやすくお話しいただき大変勉強になりました。
- ・久しぶりの開催ありがとうございました。ご苦労様でした。
- ・体調が悪い方が見えました。感染とかしても開催者の方々にも悪いので、そういう方
は控えてほしいです。無理をしない勇気あると嬉しいですネ！
- ・自分の身近で起きている子ども会存続の難しさの課題が全国的なものと認識しました。
子ども会が存続しにくいのは子どもの事情ではなく大人の事情が大きい。何かと言
訳つけて行事の中止など、やらないことが普通の世の中となっている。それにより子
どももやりたがらないことが多い。我々育成者ができることを少しずつでも考えてい
きたい。
- ・ありがとうございました。初めて参加しましたが、様々な方のお話が聞けて大変勉強
になりました。

受賞者記念写真・大会記録写真について

今大会において撮影いたしました、受賞者記念写真（集合写真）および大会記録写真につきましてはファイル転送サービス「ギガファイル」よりダウンロードしてください。

ギガファイル URL <https://72.gigafile.nu/0104-pb2b1fd65955ae5f5249560f6237a620a>

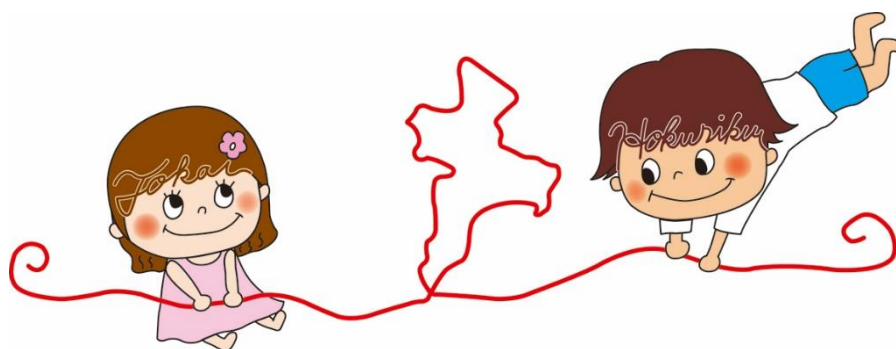
ギガファイル QR コード



ダウンロード期限：令和6年1月4日

【注意点】

- *ファイルサイズが2.18GBあります。ダウンロードの際は通信環境にご留意下さい。
- *期限を過ぎますとダウンロードできませんので、各県・市子連におかれましては再配布等に備え、期限内にダウンロードしておいてください。
- *写真データにつきましては、今大会にご参加いただきました参加者の皆さんに限り再配布を認めます。取り扱いにはご注意ください。



令和5年度東海北陸地区子ども会育成研究協議会三重大会報告

編集：令和5年度東海北陸地区育成研究協議会三重大会実行委員会

発行：三重県子ども会連合会

〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 1234 三重県生涯学習センター2階

TEL/059-233-1165 FAX/059-233-1169

ホームページ/<http://www.kodomo-kai.or.jp/mie/>

E-mail/mie@kodomo-kai.or.jp